
ドラえもんのび太と太平洋漂流紀

ピクシー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ドラえもんのび太と太平洋漂流紀

【NZコード】

N2262J

【作者名】

ピクシー

【あらすじ】

夏休みの宿題で、太平洋戦争のレポートを書く事になったのび太。ドラえもんと共にタイムマシンで、太平洋戦争末期の日本へそこで、太平洋をさ迷っていた、海軍少尉尾上永一を助けてしまう。

明日へ

初夏。太陽は見下ろすよつに照らし続け。セミ達は、成虫になつてからのその短い生涯を精一杯鳴き続ける。

「明日から夏休み皆さん夏休みだからとあまり夜更かしせず、規則正しい生活をおくれてください」

毎年の事だが…担任の先生の夏休み前の話しさは長い。だが1人の少年を除いては…

「のび君！……」

一瞬にしてさつきまで、あれほど物々しく、鳴いていたセミも鳴き止んだ。

「はい！……」

教室中に少年の半分寝ぼけた声が響く。

そして、クラスメートの苦笑いが聞こえ。

先生は重い口を開く…

「のび君、私は情けない。君は…まあいい宿題を取りに来なさい」

「のび君今年はレポートくらい書いて来なさい」

このメガネの少年は、どつやうひの程度の宿題ですら…苦痛らしい。

放課後。のび太は可愛らし少女と一緒に帰る。

「ねえのび太さん宿題大丈夫？」

少年は胸を叩いて「任せておいて」

どつやうひ。この少年は、かなりのお調子者らしい！

「ホントに？」

「だつてのび太さん。去年も同じような事言つて、結局！私の丸写

ししたじゅあん!!」

メガネの少年は立ち止まると少し考えこむ。
「どうやら、覚えいないらしー…

「大丈夫!! だつて今年はレポートだけだもん」

少年は得意そうに胸を叩いた。

「でもテーマは太平洋戦争よ」

「太平洋戦争て何?」

少年は心の中で呟いた。

「オイのび太」

狐顔の少年と、まるでゴリラのような、少年2人組が笑いを浮かべながら近づいてくる。

「のび太」

「俺たちの分のレポートも勿論書くんだろうな

「うんん…」

どうやらメガネの少年は、狐顔の少年とゴリラ少年には、頭があがらないらしいー!

「何だのび太の癖に生意氣だぞ」
狐顔の少年が冷やかす。

「何だのび太の文句があるのかー?」ゴリラ顔の少年が拳をふりあげる。

「書きます。書きます。書かせていただきます」

狐顔の少年とゴコロ顔の少年はニヤリと笑うと。

「それでこそ心の友だ」

「じゃあのがび太宜しくな」

狐顔の少年とゴコロそつくりの少年はまんまと、のがび太に宿題を押し付けたのである。

「ジャイアン新しいゲーム買つたんだ！僕の家に遊びに来いでよー！」

「何でゲームだ？」

「太平洋の嵐」

「おもしろそうじやん！！」

2人はのがび太に宿題をまんまと押し付けたのである。

「大丈夫私も手伝うわよ」

「いいんだシズカちゃん」

メガネの少年は泣きながら走りさつていった。

「ドラえもん～」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2262j/>

ドラえもんのび太と太平洋漂流紀

2010年10月13日19時44分発行